

## 参考文化財

1	白峰の出作り民家	国	重要有形民俗文化財		標高820mの山中に建てられた永久出作り小屋である。大部分が家族の手により建てられた技術的にも素朴なもので、出作りの原初の形態を今に伝える貴重な建築物である。
2	尾口のでくまわし	国	重要無形民俗文化財		深瀬と東二口の両地区に古くから伝承されている人形浄瑠璃である。でくまわしは、雪深い旧正月に演ぜられる単調な素朴なもので、文楽以前の古態を伝え、操法がひとりづかいであり、語りが文弥節といわれる点が貴重である。
3	白峰の出作り民家	石川県	有形民俗文化財		標高750mの山あい建てられた白山麓の焼畑農業を代表する大型永久出作り農家である。江戸時代中期の建築様式を用いて、自然に適応し生業に即した構造をもつ、地域を代表する貴重な建築物である。
4	旧表道場	石川県	有形民俗文化財		江戸時代末期の山村における真宗信仰の道場である。外観は一般民家と同じであるが、寺としての行事を営む衆生の間や、阿弥陀を安置する内陣等、地域を代表する貴重な建物である。
5	牛首紬	石川県	無形文化財		旧白峰村で平安後期より生産されていたと伝えられる。玉繭から手引きした糸で作るなど、全国的に類のない手仕事の技が生かされた一貫作業を特徴とする。
6	かんこ踊	石川県	無形民俗文化財		毎年白山開山祭の前夜に踊られる。白山の修行を終えて下山する泰澄大師を迎えた時の歓喜の踊りを起源するなど、いろいろ説がある。白山信仰に直結した地域を代表する民俗文化財である。
7	長滝の延年	国	重要無形民俗文化財		白山長滝神社神事の修正延年の最終日(1月6日)奉納される舞である。約700年前から続き、国内では他に奥州平泉の毛越寺に残るのみである。
8	五段の神楽	郡上市	無形民俗文化財		保安元年(1120)の白山中居神社「白山上下年中事祭祀巻」に五行之舞として記載がある。五段の神楽は巫女の舞いで、鳶の舞、二人舞、鈴の舞、扇の舞、幣の舞の五種目があり、5月の例祭に奉納される。
9	古楽面	国	重要文化財	25面	室町時代から長滝寺では能が奉納されてきた。現在残る多数の能面のうち、南北朝時代の作とされる延命冠者をはじめ、室町時代の女面、白色尉、延命冠者などがあり、地方能狂言面の研究上貴重な資料である。